

就職活動の時、国際的な職場で働け、女性でも平等にキャリアを積める

女性管理職が語る

みんなで育て、育てられる

会社としてP&Gを選びました。ところが入社すると、先輩女性の話に圧倒されました。「子供2人を連れ米国に単身赴任した」「産休育休後に大きな組織のリーダーとして昇進した」。スーパードウーマンだからできることで、自分にはとても無理、目指すことさえおこがましいと思ってしまう

当時の私は結婚もしておらず、子供をすぐ持つ予定もなかったのに自分で限界を作ってしまったし、身近な女性管理職やメディアに登場する女性リーダーと同じような感情を抱く人もいるのではないだろうか。

幸い多くの方々の励みや支援を受け、今は夫と協力し、子育てしながらシンガポールで管理職として働いています。振り返って思うのは、初めから高い目標を立てる必要も、その目標と自分を比べて不安に感じる必要も無いということです。もちろん、あえて高い目標を掲げて、そこに真

問題などいろいろな事柄

がからんでくると、初めに自分の立てた道筋どおりには行かないことの方が多いいと思います。

一足飛びに行かなくても、目の前の仕事に集中し少しずつスキルを身につけ、少しずつ冒険して自分の能力を広げていく。そして職場でも家庭でもそれ以外でも自分の味方を増やし、キャリアの節目ごとに小さな決断をしていけば、自分が思

った以上に自分の納得できるキャリアを作っていると思います。

大事なのは少しずつ背伸びをすること、頑張らないと手が届かない、けれど頑張れば手が届く程度はお断りしました。しかし、当時の上司に「急な退職などには対応できないかもしれないけれど、もし妊娠しても産休に入るまでの数カ月間でチームの体制を整えられる。できれば、このタイミングでシンガポールの仕事を挑戦してみてください」と背中を押してもらい、周りに助けてもらいながら、新たなキャリアにチャレンジしてもいいのではないだろうか。

めでの管理職として苦労していたとき、シンガポール赴任を打診されました。夫の仕事に加え、ちょうど2人目を考えており、迷惑をかけたくないという思いもあって、一度は断りました。しかし、当時の上司に「急な退職などには対応できないかもしれないけれど、もし妊娠しても産休に入るまでの数カ月間でチームの体制を整えられる。できれば、このタイミングでシンガポールの仕事を挑戦してみてください」と背中を押してもらい、周りに助けてもらいながら、新たなキャリアにチャレンジしてもいいのではないだろうか。

ることをやりました。アフリカに「1人の子どもを育てるには村全体」があった意味の格言があります。日本では「他人に迷惑をかけたらいけません」と言われることがありますが、その逆で、たくさんの人に育ててもらえばいいのです。

1人のリーダーを育てるにも多くの人の協力が必要です。育てる側もそれを意識しないといけないですし、育ててもらっても少し迷惑をかけるのも普通だと少し開き直りながら、新たなキャリアにチャレンジしてもいいのではないだろうか。

ポール・ディレクター
シンガポール
P&Gホーム
シニア

長神 真梨子氏



ちょうじん・まりこ 2010年大学卒業、日本法人マーケティング本部入社。ベビーケアやホームケア事業部などを経て、17年より2度目のシンガポールに赴任中。3児の母。

女性リーダーたちは私たち若手のモチベーションをあげようと話をしてくれたはず。しかし、

要も、その目標と自分を

比べて不安に感じる必要も無いということです。

あっという間に、子育てや家庭の事情、健康の問題などいろいろな事柄

がからんでくると、初めに自分の立てた道筋どおりには行かないことの方が多いいと思います。

一足飛びに行かなくても、目の前の仕事に集中し少しずつスキルを身につけ、少しずつ冒険して自分の能力を広げていく。そして職場でも家庭でもそれ以外でも自分の味方を増やし、キャリアの節目ごとに小さな決断をしていけば、自分が思

った以上に自分の納得できるキャリアを作っていると思います。

大事なのは少しずつ背伸びをすること、頑張らないと手が届かない、けれど頑張れば手が届く程度はお断りしました。しかし、当時の上司に「急な退職などには対応できないかもしれないけれど、もし妊娠しても産休に入るまでの数カ月間でチームの体制を整えられる。できれば、このタイミングでシンガポールの仕事を挑戦してみてください」と背中を押してもらい、周りに助けてもらいながら、新たなキャリアにチャレンジしてもいいのではないだろうか。

ることをやりました。アフリカに「1人の子どもを育てるには村全体」があった意味の格言があります。日本では「他人に迷惑をかけたらいけません」と言われることがありますが、その逆で、たくさんの人に育ててもらえばいいのです。

1人のリーダーを育てるにも多くの人の協力が必要です。育てる側もそれを意識しないといけないですし、育ててもらっても少し迷惑をかけるのも普通だと少し開き直りながら、新たなキャリアにチャレンジしてもいいのではないだろうか。